

# 第1回 北の文脈文学講座

## まつえい 荒ぶる血の末裔

講師 佐藤 きむ

(佐藤紅緑の姪、文筆家)



佐藤愛子『晩鐘』  
文藝春秋 平成27年

佐藤紅緑兄弟には、男女を問わず自分の我を押し通すという強力な DNA があって周囲に迷惑をかけ続けてきた。紅緑の末娘である愛子は、この DNA を「荒ぶる血」と名付け、これを軸として大河小説『血脈』を書いた。「荒ぶる血」の元祖は、紅緑の父弥六だと一族の間でも思っている人が多いのだが、弥六の父甚内もかなりの DNA の持ち主だったらしい。その影響は、弥六の孫の世代までも続いたが、配偶者に温厚な人が多かったせいか、その後はどうやら絶滅したようである。「荒ぶる血」の最後の後継者世代の一人である愛子の心の奥に、ひっそりと流れていた温かさを、愛子の最後の長編小説『晩鐘』の中から探りたい。

当日、受講できない方のためにライブ配信を行います。  
ライブ配信後は、「アップルストリーム」にてご視聴いただけます。

日時 令和5年5月20日(土) 午後2時～3時

配信 動画サイト「アップルストリーム」



<https://applestream.jp/14673/>

配信を視聴するには、PC・スマートフォンで上記 URL にアクセスするか、スマートフォンから QR コードを読み取ってください。  
スマートフォンの使い方でご不明点がございましたら、郷土文学館窓口までお越しください。  
視聴は無料ですが、通信にかかる費用はお客様のご負担になります。

〈協力〉アップルウェーブ株式会社

〈お問い合わせ〉弘前市立郷土文学館 ☎0172-37-5505